

SDGs に関連したシンポジウム

A Symposium Related to SDGs

<プロジェクト・メンバー>

南部 和香^{†1} 長橋 透^{†1} 石田 博之^{†1} 村田 和義^{†1}
高村 正志^{†1} 吉田 葵^{†1}

Nambu, Kazuka^{†1} Nagahashi, Toru^{†1} Ishida, Hiroyuki^{†1} Murata, Kazuyoshi^{†1}
Takamura, Masashi^{†1} Yoshida, Aoi^{†1}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

キーワード：SDGs, 産官学プロジェクト

Keywords: SDGs, Collaboration of industry, Government and academia, Symposium

1. プロジェクトの目的と概要

1.1 プロジェクトの目的

本プロジェクトは、SDGs の達成に向けた取り組みを産官学で連携して行うことを目的としている。近年、大学の地域貢献はより強く求められるところとなっており、本プロジェクトの取り組みも、SDGs を通した教育機関の地域貢献の一つである。

今年度は、SDGs の達成に向けた取り組みの一つとして、障がい、ケガ、病気によって支援を必要とする学生の進路・就職に焦点をあてた取り組みを行った。障がい学生はもとより関係者や市民にも公開するシンポジウムを開催することで、産官学および地域で連携して障がいと雇用について考え、そこで得られた情報や知識を共有する機会としたいと考えた。

本プロジェクトでは、障がい学生の進路・就職に関して、自治体や大学、企業の相互理解が進むことが期

待される。大学・自治体・企業・障がい学生（とその関係者）が相互に関わる機会は少なく、お互いのニーズや対応可能性について意見を交換できる機会が限られている。そこで、今回のシンポジウムを通して、自治体や大学のサポート体制、障がい学生の進路・就職に求められるサポート、企業側の受け入れ体制などについて、相互に理解しあう場を提供する。

2. 本年度の取組み概要

2.1 経緯

本プロジェクトは、2021 年 3 月 25 日に社会情報学部が相模原市の「さがみはら SDGs パートナー」となったことをきっかけとして、相模原市 SDGs 推進室と連携して実施できるテーマを模索した結果、SDGs とも関連の深い障がい学生の就職支援をテーマとすることが決まった。本学部は FD の一環として

障がい学生への支援や合理的配慮について研修を行うなど、当該テーマについて以前より取り組んでいた背景もあり、このテーマが適切であると考えた。

2.2 経過

6月初旬からプロジェクトメンバー内での打ち合わせをスタートし、主な経過は以下の通りである。

- 6月 実施内容検討、学内協力部署に打診
- 7月 相模原市・関係部署との顔合わせ
- 9月 実施内容・日程検討
- 10月20日 勉強会開催、学外組織への講演打診
- 11月 講演内容調整
- 12月1日 Webサイト公開及び参加申し込み開始
- 12月22日 シンポジウム（オンライン開催）

3. プロジェクト内容

3.1 シンポジウム

シンポジウムのタイトルは「共にささえあい生きる社会の実現 ―障がいのある学生の社会参加を目指して―」である。「共にささえあい生きる社会の実現」は障がいのある方への理解を深め、すべての人が共に支え合い生きる社会を実現するための相模原市のキャッチフレーズである。そして、「障がいのある学生の社会参加を目指して」は、障がいのある学生はもとよりそのご家族、大学の関係部署すべてが目標としているテーマを挙げることにした。

障がい学生の進路・就職というテーマのもと、学内外の組織と連携してシンポジウムの準備を進めることとなった。学内では、障がい学生支援センターおよび相模原事務部進路・就職課と連携し、学外との連携では、相模原市SDGs推進課、相模原公共職業安定所、そして神奈川障害者就職センターの協力を得ることができた。

本シンポジウムが想定するSDGsのゴールは以下の3つである。



図1 本シンポジウムに関連するSDGsのゴール

3.2 勉強会

10月20日に、芳賀美和氏（相模原公共職業安定所、専門支援部門統括職業指導官）および日高幸徳氏（神奈川障害者職業センター、主幹障害者職業カウンセラー）の2名をお招きし、勉強会を開催した。

講話を通して、障がい者の進路・就職に対して多岐にわたる手厚いサポートがあることがわかり、障がい学生を支援するための知見を広げることができた。この勉強会で得られた知見を本学学生やそのご家族、地域社会とも共有することが重要と考え、シンポジウムへの登壇を打診することとなった。

3.3 シンポジウム Web サイト作成

図2の特設サイトを社会情報学部Webサイト内で公開した。特設サイト内にはシンポジウムのスケジュール等を掲載し、サイト内からシンポジウム参加申込みフォームへと誘導できる設計とした。参加申し込みフォームは、Google フォームを利用して作成した。

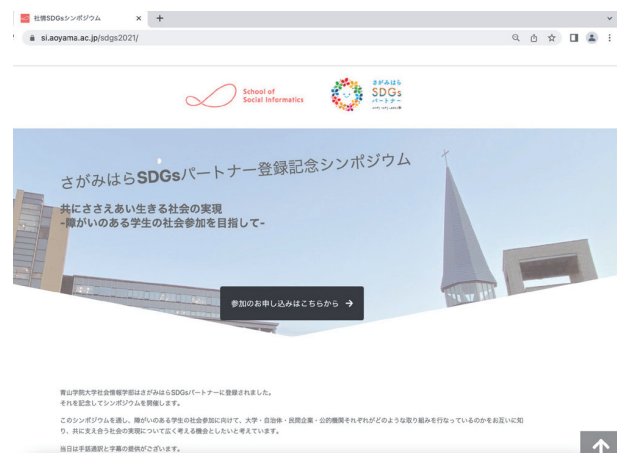


図2 本シンポジウムのWebサイト

3.4 配布チラシ作成および広報

図3が配布したシンポジウムのチラシである。図4、図5は、大学広報を通したシンポジウムの広報活動である。これ以外にも学部HPやさがみはらSDGsパートナーのメーリングリストなどを活用した。

青山学院大学社会情報学部
さがみはらSDGsパートナー
登録記念シンポジウム

**共になさえあい生きる社会の実現
-障がいのある学生の社会参加を目指して-**

2021.12.22 水 14:00 ~ 16:30
オンラインで開催いたします

参加には事前申込が必要です（参加費無料/定員80名）

開会挨拶 宮川 裕之（青山学院大学 社会情報学センター長）

講演
障がいの社会モデルと大学における合理的配慮
長橋 透（青山学院大学 障がい学生支援センター長）
障がいをもった学生の就職支援1
高橋 麻矢（相模原公共職業安定所 発達障害者雇用トータルサポーター）
障がいをもった学生の就職支援2
日高 幸徳（神奈川県障害者職業センター 主幹障害者職業カウンセラー）
相模原市の障がい者雇用の取組について
萩原 有美（相模原市人事・給与課 主査）
エンパワーメント（個性の発揮）による個々の役割と活躍について
佐野 裕己（株式会社ビ・ネックスウイズ 代表取締役社長）

質疑応答
閉会挨拶

Aoyama Gakuin University

参加お申し込み方法
以下のWebサイトにある参加申し込みフォームから必要事項をご記入の上【12月15日まで】にお申し込みください。定員を超えた場合は青山学院大学を優先といたします。ご了承ください。
参加に際しなんらかの配慮が必要な場合はお申し込み時に記入ください。

<https://www.si.aoyama.ac.jp/sdgs2021/>

主催：青山学院大学 社会情報学センター
協力：青山学院大学 障がい学生支援センター、相模原市SDGs推進室
お問い合わせ：社会情報学センター SDGsシンポジウムプロジェクト
sdgs2021@si.aoyama.ac.jp

図3 本シンポジウムの配布チラシ

共になさえあい生きる社会の実現 -障がいのある学生の社会参加を目指して-

2021.12.22

社会情報学部さがみはらSDGsパートナー登録記念シンポジウム「共になさえあい生きる社会の実現 -障がいのある学生の社会参加を目指して-」

社会情報学センター主催で下記のシンポジウムを12月22日（水）、オンラインで開催いたします。
「共になさえあい生きる社会の実現 -障がいのある学生の社会参加を目指して-」

このシンポジウムを通し、障がいのある学生の社会参加に向けて、大学・自治体・民間企業・公益機関それぞれがどのような取り組みを行っているのかお互いに知り、共に生えあう社会の実現について考える機会としたいと考えています。

図4 大学HPのイベント情報

2021.12.22

社会情報学部さがみはらSDGsパートナー登録記念シンポジウム「共になさえあい生きる社会の実現」

SDGs目標

2021.12.22 水 14:00 ~ 16:30
オンラインで開催いたします
参加には事前申込が必要です（参加費無料/定員80名）
開会挨拶 宮川 裕之（青山学院大学 社会情報学センター長）
講演
障がいの社会モデルと大学における合理的配慮

図5 青山学院大学SDGs取り組み事例一覧への掲載

4. 実施報告

4.1 実施

2021年12月22日に、「さがみはらSDGsパートナー登録記念シンポジウム『共になさえあい生きる社会の実現 -障がいのある学生の社会参加を目指して-』」を、Zoomウェビナーを利用したオンライン開催として実施した。

申し込み件数は28件であり、関係者をのぞいたZoomウェビナーへの接続数は25件であった。1接続あたり複数人での視聴していたケースもあり、関係者を含めた本シンポジウムの参加者数は50名程度であったと考えられる。他大学教職員や相模原市企業からの参加もあったが、本学学生は2名と当初想定していた人数よりも少なかった。

4.2 シンポジウムにおける障がいへの配慮

シンポジウム参加者への配慮として、手話通訳および要約筆記を配置することとした。

4.3 オンライン配信

配信会場として相模原キャンパスB棟7階B737

会議室を利用した。また、同 B 棟 6 階 B631 室を要約筆記者の場所として用意した。

これらの回答からも、本シンポジウムが概ね好評だったといえる。

4.4 アンケート結果

シンポジウム終了後に、参加者に対して Google フォームを利用したアンケートを実施した。（回答数 14）

本シンポジウム全体の満足度については「大変満足」「満足」との回答が 14 名中 12 名であった。また、自由記述による本シンポジウムの感想の一部を以下にあげる。

- ・ 大変有意義でした。
- ・ 知りたい情報が伺えて、大変勉強になりました。
- ・ 配慮学生について学外のリソースや連携について知ることができてよかった。
- ・ 概要説明だったので、もう少し詳しく個々の話を聞いてみたいと感じました。
- ・ 聴覚障害に特化して情報保障を付けていただきありがとうございました。
- ・ 普段中々取り上げられない内容を解りやすく説明されていて良かった。

5. 来年度に向けて

来年度も引き続き、産官学が連携して「SDGs × 働く」を基本テーマとして、「LGBT と働き方」「女性のセカンドキャリア」など展開していきたい。また、シンポジウム終了後のアンケートで希望する内容・テーマを回答してもらったところ、貧困・経済格差、環境保全系、障がい者雇用など、様々な回答があった。プロジェクトメンバーの専門分野と関連付けながら、様々なテーマを検討していきたい。

謝辞

本学障がい学生支援センターのコーディネータである北澤弘二氏と長谷川大也氏ならびに就職支援センターの関口佳宏氏には、本シンポジウムのメンバーとして専門的な情報の提供および関係各署への連絡等でご尽力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

参考 URL

- [1] さがみはら SDGs パートナー, <https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/partner/>
- [2] シンポジウム Web サイト, <https://www.si.aoyama.ac.jp/sdgs2021/>